

のびやか



66号

♪どんぐり園ピクニック♪♪ ～庄内緑地公園～

医療型児童発達支援センター「どんぐり園」は、就学前のお子さんがご家族と一緒に通園しています。

2グループに分かれて、庄内緑地公園にピクニックにいきました！木々に囲まれ、緑いっぱいの公園できれいに咲いたバラをみたり、芝生にレジャーシートを敷いてお弁当を食べたり、歌をうたったり♪またとても天気がよく暑い日だったので、みんなでアイスクリームを買って食べるなど…楽しい時間をみんなで過ごしました。



目次：

シリーズ 「青い鳥の発達外来と 発達支援」	2～3
地域で引き継がれる 障がい児支援	4～5
本の紹介・研修のご案内	6
入所部門の取り組み紹介	7
掲示板	8

シリーズ ～ 青い鳥の発達外来と発達支援 ～ その2

青い鳥の発達支援におけるST

「わくわくクラブについて」

青い鳥医療療育センター 主任言語聴覚士
青木 徳子



今回は青い鳥センター内での発達障害児に対する支援について、特にST（言語聴覚療法）と集団のコミュニケーション支援である「わくわくクラブ」を紹介したいと思います。

その前に発達障害、特にASD児(自閉症スペクトラム)について少しふれたいと思います。ASD児の多くは感覚の過敏さや鈍感さの問題をもち、それが他者とのやりとりの問題になっていくことがあります。普通赤ちゃんは親の声や匂いや肌触りを感じとり、泣いたり笑ったりして親を求めることができます。親の方も赤ちゃんに求められた喜びを感じて応じていきます。つまり母と子の間では乳児期からもう相互的なコミュニケーションが成立しているのです。

それに対してASD児の場合、聞こえる世界は雑音に満ちていてそこから人の声のみをききとることができなかつたり、見える世界も様々な色や形にあふれかえっていて人の顔に注意を向けなかつたりします。それでもそういった環境の中から、子どもは試行錯誤し、人との関係をゆっくり作っていきます。

まずは家族との関係、次は家族以外の大人との関係、そして子どもどうしの関係へと進むわけですが、その他者とのやりとりの入り口が安心できて楽しいものであることが子どもにとって重要です。

そのためには親御さんが当センターを受診し診断を受けられたあと、それをどう受け止め、どう子どもを理解していくかということをお母さんとともに考えていく支援が必要になってきます。当センターの発達障害児に対する支援は、まずは子ど

もの発達の段階に合わせた他者とのやりとりを支援していくとともに、親御さんに対しても子どもとの関わり方の支援を行っていきたくと考えています。その一環としてSTとわくわくクラブがあります。

当センターの発達支援におけるST：発達障害児への親子コミュニケーション支援

STでは、子どもが家族以外の大人との関わりを作っていくところを支援していきます。関わり合いとしては一番シンプルなかたちで、まずは大人と1対1の関係の中で子どもが人に気づき、関わりを求め、やがてはその人と関わるのが楽しみになるような関係を作っていくことが目的です。それには子どもが楽しめる遊びそのものが成立することが手段であり目的になります。

またご家族は診断を受けられた後、それをどう受け止め子どもと向き合っていくか、悩む時期に、STでは親御さんの気持ちに寄り添いながら子どもさんについて一緒に考えていきます。

STは基本的には半年間という期間を区切り、週1回の頻度で行っています。個別のST室で1回40分です。まず子どもと言語聴覚士と一緒に遊び、ご家族にはその様子を見て頂きます。その後、感想等をおききしながら子どもについて一緒に考えていきます。STをやっている期間中は3ヶ月に



一度診察に入ってもらい、STでの経過を主治医とともに確認して頂きます。

<わくわくクラブ>

大人との関係をへて保育園や幼稚園にいった ASD の子どもたちの中でも、大きな集団の中ではなかなか自分を出せなかったり、子どもどうしの関係がうまくいかない場合、小集団の支援である「わくわくクラブ」の支援の対象になってきます。



わくわくクラブは年中の9月からの半年間もしくは年長の4月からの半年間で行うグループの支援となります。

対象は当センターでASDの診断を受け普通学級に就学がみこまれる知的な遅れのないお子さんです。おおむね6～7人のグループです。

スタッフは保育士、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士といった多職種で連携して支援をおこなっています。頻度は月3回程度になります。木曜日の午後2時間程度の時間をかけて行っています。ご家族の方には後ろの席に座って頂き、子どもの様子を観察してもらいます。そして毎回プログラム終了時に親のグループミーティングを行います。そこで親御さん同士が子どもの様子を共有することによって、グループに絆が生まれ、親にとって居場所になっていくことも大切にしています。

※STを受けるにはまずは受診が必要です。

※発達障がいのお子さんを対象としたコミュニケーション支援は発達外来と同様、尾張中部福祉圏域と海部福祉圏域に絞られます。グループ支援の方も同様です。STは初診後すぐに入ることが多いのですが、グループ支援の方はお子さんが年中、年長になって適応がある場合にお誘いするかたちになっています。

次号に続く・・・



<お詫び>

のびやか38号（平成19年発行）の「親の会紹介 『でこぼこくらぶ』（弥富市）訪問記」の記事に誤りがありました。

下記のとおり、訂正し、お詫び申し上げます。

☆でこぼこクラブの誕生

「10年前（平成9年当時）、弥富市（弥富町）には親の会（乳幼児期の子どもをもつ親同士が気軽に集まり、相談しあえる場所）も通園施設もなく、中・高生の会員のお母さんたちは「町の中で障がい児はうちだけかな」と思っていました。月2回のわいわい教室と児童相談所以外に通う場所がなく、養護学校に就学しても弥富出身の同級生がいない状況もありました…」と掲載しましたが、「親の会もなく」を削除し、下記の通り訂正させていただきます。

（正）「10年前、弥富市（弥富町）には通園施設がなく…」

弥富市心身障害児（者）保護者会「ひまわり会」、海部地区心身障害児者保護者会連合会さんはじめ、海部圏域では多くの親御さんが長きに渡り、親の会の活動に熱心に携わっておられました。敬意を表するとともに重ねてお詫びを申し上げます。

*当センターのホームページでこれまでに発行した「のびやか」のバックナンバーの閲覧が可能となっていますが、そちらの記事を訂正しました。

<http://aioitori-center.com/>



地域で引き継がれる障がい児支援 ～障害児等療育支援事業の現場～

Vol. 1

愛知県青い鳥医療療育センター 前療育支援課長 筒井 恵二

平成9年4月、愛知県ではそれまで児童相談所が主体となって実施していた「心身障害児（者）巡回療育指導事業」を、実施主体を障害児（者）施設とした「障害児（者）地域療育等支援事業」として組み替え、国の指定を受け事業を実施していくことになりました。



事業開始の時に愛知県コロニーの職員として、最初にこの事業の担当として係わらせて頂きましたが、その時には、海部圏域には親子通園は一か所もなく、尾張中部圏域に二か所あるだけでした。

今回、私がこの一文を書かせて頂くことになりましたのは、平成24年4月に青い鳥医療福祉センターの療育支援課長として勤務することになり、10年ぶりにこの事業に係わることになりました際に、現在の青い鳥医療療育センターの担当圏域である海部、尾張中部圏域すべての市町に親子通園ができていと知ったことです。

この20年の経過が、この両圏域の障害児支援に尽力された関係者の努力に敬意を払うとともに、事業開始当初の状況を振り返ってみたいからです。平成9年、この事業を実施するにあたり、当時は支援施設が今のように各障害福祉圏域に整備されておらず、現在の青い鳥医療療育センターの担当圏域である海部、尾張中部圏域にも支援施設がなかったため、愛知県コロニーが支援施設として受け持つことになりました。ただ、この時期は、一部「心身障害児（者）巡回療育指導事業」も継続して実施するという事で青い鳥医療療育センター（当時の第一青い鳥学園）は、津島市の彩雲館での巡回相談を継続して実施していました。事業開始当時は、それまでの児童相談所が実施していた「心身障害児（者）巡回療育指導事業」の流れもあり、また、平成9年度の事業計画は、前年度に地域の意向も確認して作成されたことからこの事業の担当者は、平成8年度の事業内容を踏襲する形で事業を実施しました。

ここで、20年前の状況をちょっと振り返ってみたいと思います。

<海部圏域の状況>

平成9年度の海部圏域内市町村への施設支援事業の内容は、以下のようなものでした。保育園 8回、保護者対象1回、町内保育士研修1回の計10回でした。（当時は、町村合併前でしたので、旧市町村名で表に一覧にしてみます。）

市町村名	支援先等	実施回数
津島市	保育園	1
七宝町		
美和町		
甚目寺町	保育園 保護者（親の会）	2 1
大治町	保育園	1
蟹江町	保育園	1
十四山村	保育園	1
飛島村		
弥富町	障害児保育研修会	1
佐屋町	保育園	1
立田村		
八開村		
佐織町	保育園	1

他の圏域に比べて、支援回数が少ない印象を持ったことと、障害児指定園を決め障害児を受け入れるというシステムも市町村によってはまだまだ整っていない状況のところもあり、市町村を通じての保育園等への訪問もなかなか受け入れ回数が増えませんでした。また、当時の海部圏域における障害児療育の現状は、障害児通園施設（いわゆる単独通園）や親子通園施設が1か所もない地域でした（一部自主的な療育グループはありましたが）。これは、周辺の圏域では考えられないことでした。

支援施設であった私たちは、この状況をどうしていくのかということで、次のような方策を考えました。その一つは、1歳6か月健診及び健診事後指導の取り組みについて、障害の理解と合わせて圏域内の保健師を中心に研修を行うこと。



それにより、市町村での事後指導後の行き先（療育グループ）の必要性を確認し、その結果を受け、市町村児童福祉担当課（保育担当課）と事後指導→親子通園（療育グループ）→保育園就園→就学の流れを考えてもらう研修を行うということでした。そのため、1歳6か月健診及び健診事後指導の取り組みについての研修2回、通園施設の役割についての研修1回、障害の理解についての研修2回を実施しました。

親子通園は、津島市に「かるがも園」ができる平成13年まで時間がかかりました。

二つ目は、当時の津島児童相談所（現：海部児童・障害者相談センター）と協力して、他の圏域では親子通園を経由して保育園に入園するケースが海部圏域ではいきなり保育園に入園することになるため、気になる子どもさんのいる保育園への支援を進めることでした。これは、市町村ごとにばらつきはあるものの年を追うごとに、支援する保育園の数も増え、当初実施していなかった七宝町や美和町にも翌年、翌々年と支援に入ることができました。

平成13年に津島市にかるがも園ができて以降、海部圏域では平成20年までの7年間で町村合併があったものの全市町村に親子通園ができたことは驚きでありました。



＜尾張中部圏域の状況＞

次に平成9年度の尾張中部圏域内市町への施設支事業の内容は、以下のようなものでした。

市町名	支援先等	実施回数
西枇杷島町	保育園	2
豊山町	保育園	2
師勝町	保育園 親子通園	2 1
西春町	保育園 親子通園	1 4
春日町	保護者（親の会）	2
清洲町	保育園	2
新川町	保育園	3

親子通園5回、保育園12回、保護者対象2回の計19回でした。この圏域には、昭和55年から親子通園（当時は母子通園）事業を実施している先進的な施設があり、県下でも注目されることでした。その反面、親子通園のない町との格差が大きく、施設支援に入っていた私たちにも、圏域全体に親子通園を広める必要性を感じたところでした。そのため、海部圏域と同じく1歳6か月健診及び健診事後指導の取り組みについて、障害の理解と合わせて圏域内の保健師を中心に研修を行い、それにより、市町村での事後指導後の行き先（療育グループ）の必要性を確認しました。その結果を受け、市町村児童福祉担当課（保育担当課）と事後指導→親子通園（療育グループ）→保育園就園→就学の流れを考えてもらう研修を行うということでした。この圏域でも、平成20年までに市町村合併があったものの全市町村に親子通園ができました。



（次回につづく…）

読書コーナー

「なっとうさんがね…」

とよた かずひこ



おはなしの内容やイラストはとても単純なのに、なぜか何度も見たくなっちゃう。美味しそうな食べ物が題材の「〇〇さん(くん)がね」シリーズの本は、子どもたちに大人気の本です。その中でも特に人気の「なっとうさんがね」の本をご紹介します。

たくさん集まった納豆たちがぎゅうぎゅうひしめきあっている姿が目を引きこの本。よく見ると一粒一粒表情が違って、読み終わったあとは「見せて」と言う子もいます。同じ言葉を繰り返すうちに一緒に言ってくれるようになった子も、ある一粒が落ちそうになるページになるとそこではとした表情を見せてくれたり、「あれえ〜〜〜」と落ちていく姿を期待してそのページが近づくにつれ笑顔や笑い声が増えていったり…。その結末を知っていてもやっぱり毎回ドキドキしながら見ていてくれます。仲間を助けようとしているうちに自分が落ちてしまうシーンも本物の納豆そっくりで、絵本の後に本物を見るともっと楽しいんじゃないかなと思います。そしてお決まりの「しんぱいごむよう!」。お箸さんが納豆さんを仲間のところに運んでくれ、最後の「ねばねばぎゅうぎゅう」はみんな安心した顔で一緒に言ってくれます。

そして、あったかご飯の上に乗せてみんなで一緒に「いただきます」。その絵を順番に触ってむしゃむしゃ食べるのもこの絵本の楽しい所だと思います。

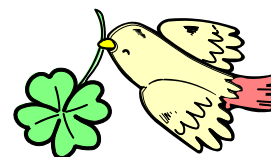
(児童発達支援センターどんぐり園 保育士 小坂井)

☆ 青い鳥医療療育センター 地域療育担当からのお知らせ

青い鳥医療療育センターでは、海部・尾張中部障害保健福祉圏域で障害児(者)療育等に携わっている職員を対象に年に4回、地域療育研修を実施しています。

第1回(7月)は「地域における青い鳥医療療育センターの役割」「子どもの発達と睡眠」というテーマで実施し、94名の参加がありました。第2回(8月)は「不器用な子どもへの援助～身体の使い方～」「自閉症スペクトラム児への支援と理解」というテーマで実施し、110名の参加がありました。第3回は10月10日(火)、第4回は12月12日(火)それぞれ14時からを予定しています。また、ご案内を送付させていただきます。

たくさんのご参加お待ちしております。



療養介護・医療型障害児入所施設

各棟の取り組みの紹介 ①

しばらくお休みをしていた入所部門の利用者さんの生活の様子や取り組み紹介を今号から再開します！センターにはひまわり棟（東・西）、たんぽぽ棟（東・西）、なのはな棟の5つの病棟があります。今号はひまわり東棟の取り組み紹介です。

ひまわり東棟には、3歳から78歳の利用者さん30名が暮らしています。日常的に経管栄養、吸痰等の医療的ケアの必要な利用者さんが多い棟ですが、医師・看護師・保育士・支援員が連携を図りながら、健康に穏やかに過ごせるように、また潤いのある楽しい生活・人生を送れるようにカンファレンス等を重ねながら利用者さんの生活を支援しています。

季節ごとの行事やさまざまな取り組みを行っていますが、今回は「おたのしみ会」の様子を紹介をします。



ひまわり東 おたのしみ会

今年のひまわり東棟のおたのしみ会は・・・
「ものまね王座決定戦！！」
半月ほど前から、準備したり、練習したりして当日を迎えました。

すずらんチームは、「ブルゾンちえみ」。
かわいいブルゾンと素敵なwith Bによる「35億♥」が披露されました。

ポプラチームは「美女と野獣」。キレイなドレスをまとった美女2人とイケメンとアイドルによる野獣2人が癒しのダンスを披露しました。

星チームは若い20代3人による「PPAPアンパンマンバージョン」。
ヒョウ柄とサングラスの似合う、カッコいい舞台でした。

各グループ今年度の目標を四字熟語で宣言し、他病棟のみなさんの応援の中一生懸命頑張りました。注目されることで緊張してしまう方、堂々と披露して楽しむ方・・・様々な発見があって、みんなで笑って踊って楽しく過ごせました！

（ひまわり東棟 保育士 佐藤）



三つの大きな柱（理念）

- 1 すべての人の命と生活を「ささえます」
- 2 とともに生きる社会を「めざします」
- 3 これらを私たちの使命として「はたします」

外来診療のご案内

	月	火	水	木	金
午前 9:00 ～ 12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科(栗田) ・小児科(菱川) ・児童精神科(野邑) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科(橋本) ・皮膚科(大口) ・歯科(松野) ・児童精神科(山本) ※9:30～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科(栗田) ・小児科(平岩) ・眼科(岩味) <第2・4> 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ科(岡川) ・耳鼻科(別府) ・小児発達外来(安井) ・小児科(横井) <第1・3> ・歯科(岡本) <第1・3・5> ・児童精神科(早川) <第2・4> ※10:00～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科(萩野) ・小児科(安井) ・児童精神科(小川) <第1・2・3・5> ・児童精神科(小野) <第4>
午後 1:30 ～ 4:00	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科(栗田) ・耳鼻咽喉科(別府) ・児童精神科(野邑) ・循環器内科(西村) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童精神科(山本) ・小児科(麻生) <第2・4> 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児発達外来(安井) ・泌尿器科(斎藤) <第2 16:00～> ・眼科(高井) <第1・3> ※14:00～ ・歯科(林) ※13:45～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ科(岡川) ・小児発達外来(安井) ・歯科(岡本) <第1・3・5> 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科(萩野) <第2・4> ・小児外科 <第1/新美> ・眼科(田中) <第3/田中> ・児童精神科(小川) <第1・2・3・5> ・児童精神科(小野) <第4> ・小児科(安井) <第1・2・3・5> ・構音障害(安井) <第4> ・歯科(堀部)



○平成29年9月1日現在の外来診療です。
○受診を希望される方は、電話で予約してください。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
★ ホームページもご覧ください ★
★ <http://aoitori-center.com/> ★
★ *過去の「のびやか」も掲載されています。 ★
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

〒452-0822 愛知県名古屋市中区中田井五丁目89番地
電話 (052) 501-4079
FAX (052) 501-4085
Email aoitori@bk9.so-net.ne.jp

●名鉄犬山線 名古屋駅から10分・名鉄「中小田井駅」下車 徒歩約3分。
●地下鉄舞臺線 上小田井駅下車 徒歩で約13分。
●一宮方面からは、国道22号を「古城1」で左折、4つ目の信号「中小田井4」を右折し、2つ目の信号を左折してすぐ左側。
●橋JCT方面からは、東名阪自動車道 山田東インターを降りて約10分。
●四日市方面からは、東名阪自動車道 平田インターを降りて約5分。